# 平成24年度一般財団法人・日本ドッジボール協会　中央研修会 報告書

報告者：小川　真弓、加藤　重亮

日時：平成２４年１１月３日（土）１３：００～平成２４年１１月４日（日）１２：００
会場：平成２４年１１月３日（土）　宇都宮市青少年活動センター・会議室　（宇都宮市今泉町3007）
　　平成２４年１１月４日（日）　宇都宮市青少年活動センター・体育館　（宇都宮市今泉町3007）

講師：日本協会審判部長　　奈良県協会　　前田 裕史
　　競技委員　　滋賀県協会　　平井 浩司
　　秋田県協会　　石塚　学
　　茨城県協会　　斉藤　和則

一日目：座学
審判員に求められるもの

統一基本動作の説明及び手順　（別紙資料参照）

6班に分かれてグループミーティング

二日目：実技
統一基本動作確認と実技指導

1.「オフィシャルタイムアウト」後の説明について

（1）「協議及び確認」を行った場合
（2）安全確認のみを行った場合
（3）主審の支配権間違いにコートマスターが「タイム」により訂正する場合
（4）「緊急プレイヤー」との交代の場合
（5）「指導」「警告」「退場」「失格」の場合→必ずコートマスターに確認（報告）する。
（6）「緊急プレイヤー」の交代がない場合
（7）復帰権の放棄

2. 複数セットの試合で、セット終了時及びセット開始前の各審判員の動作について

3. 線審　　オフィシャルタイムアウト時の動作

4. 副審のダブルタッチファール判定について

5. 副審のアドバンテージについて

6. タイムイン時の線審の定位置

【統一基本動作】

1.「オフィシャルタイムアウト」後の説明について

(1)「協議及び確認」を行った場合

・「協議の結果、〇番、アウト。ボール支配権の指示」→アウトの場合

・「協議の結果、このまま試合を再開します。ボール支配権の指示」
→支配権が変わらない・「アウト」が発生していない場合

・「協議の結果、〇番・ファールコール、ボール支配権の指示」
・「協議の結果、〇番・ファールコール、〇番セーフ、ボール支配権の指示」
→ファールが発生していた場合

・「協議の結果、ボール支配権の指示」→支配権が変わる場合

(2)安全確認のみを行った場合

・「このまま試合を再開します。ボール支配権の指示」

(3)主審の支配権間違いにコートマスターが「タイム」により訂正する場合

・「協議の結果、ボール支配権の指示」

(4)「緊急プレイヤー」との交代の場合

・「ただいまのオフィシャル～」の文言はなし（以下、ルールブックP132通り）

**※P132《例2》 協議をした場合**
**「赤3番負傷のため、赤13番と交代です」「協議の結果、赤3番アウト」「赤3番はアウトのため、赤13番は外野へ移動をして下さい」**

(5)「指導」「警告」「退場」「失格」の場合→必ずコートマスターに確認（報告）する。

・「協議の結果、〇番（のプレイ）は～のため「警告」「退場」「失格」です。「カードの提示等」
もしくは、「指導」しました。ボール支配権の指示」

**※主審が「指導」→コートマスター確認→「指導」**
**※副・線審が「指導」→協議→コートマスター確認→共通認識・解散→副・線審が「指導」**
**（協議は、主審がコートマスターに確認している間は、解散しない。）**
**※コートマスターは、ベンチに内容の説明をする。**

(6)「緊急プレイヤー」の交代がない場合

・「〇番負傷のためプレイ続行不可能になりましたが、このまま試合を続行します。ボール支配権の指示」

(7)復帰権の放棄

・「〇番、復帰権の放棄とみなします。〇番外野に戻ってください。」
・「〇番、アウトプレイ、ボール支配権の指示」

**※必要に応じて、「プレイの確認をしました。」、「支配権の確認をしました。」、「安全確認をしました。」等の文言を加えても良い。（必要に応じて：D2、D3クラスの場合）**
**※カスリ等内外野どちらからの投球かはっきりしない場合は、「外野からの投球」、「内野からの投球」の文言を加えると分かりやすい。（復帰権の発生）**

2. 複数セットの試合で、セット終了時及びセット開始前の各審判員の動作について
・セット終了時
各審判員は、「①ベンチ前整列時」(P103)の状態で、サイドライン近くに集合し、全員揃って「コートに会釈」し、解散する。

・セット開始時
各審判員は、「①ベンチ前整列時」(P103)の状態で、サイドライン近くに集合し、全員揃って「コートに会釈」し、それぞれのポジションで準備する。(線審は、P103④の定位置)
※移動の際は、線審はコートを横切らない。

3. 線審　　オフィシャルタイムアウト時の動作
・1，2の線審(3，4の線審、もしくは全員)が同時に、オフィシャルタイムアウトを要求した場合
線審　オフィシャルタイムアウト時の動作(23年度中央研修会　B実技)
①オフィシャルタイムアウトを要求した線審
旗を振りながら,吹笛,コール,全力疾走で,センターサークルに行く

※1，2(3，4)審が同時にセンターサークルまで行き、後ろを振り向き、動作(ジェスチャー)と声で座るよう指示する。
※1，2(3，4)審が同時にタイム要求した場合、どちらかの線審が、その場に残り座らせていたが、笛を吹きはじめているので、途中で止めることなくタイム要求する。

②その他の線審の動作
両腕を肩の高さまで挙げ,旗をひろげ.外野選手をその場に座らせる(動作と声で指示する)。
選手をその場に座らせた後,全力疾走で、センターサークルに行く。

4. 副審のダブルタッチファール判定について
※副審からのアウト判定(アウトコール)があった場合のみ、アウトコールされたプレイヤーのその後のプレイがダブルタッチファールであった場合に対し、ファール判定及びコールできるものとする。
・動作及びコール
副審:「ピッ！」「アウト」・「ピーッ！」「ダブルタッチ」
副審のコールの後
主審:「ピーッ！」「ダブルタッチ」　「チーム名、内野ボール」
※副審は、主審のコール、支配権の指示まで、ダブルタッチ動作を継続する。

5. 副審のアドバンテージについて
※センターライン上でのオーバーライン及びホールディングのファール発生時のみとする。
・動作
副審:ファール発生を視認したと同時に「手を上げる(ファール動作)」
解除の時は、手を下す。
※誰にも触れずにアウトオブバーンズになった場合
→アドバンテージ動作「解除」(手を下す)、アウトオブバーンズ動作

6. タイムイン時の線審の定位置
※ボール支配権のある外野側の線審は、ルールブック・テキストブック記載の定位置(P103)
※ボール支配権の無い外野側の線審は、サイドライン延長上と外野ラインの交わったところ(ボールデッドゾーン)を定位置とする。
・動作:主審の支配権の指示の後、それぞれの定位置に移動。タイムインの合図後、ボール及びプレイに対し、取るべき位置へ移動する。(基本の定位置は四隅)